



# CDP2014 優秀企業

## 東芝株式会社



東芝株式会社 代表執行役社長 田中 久雄氏

当社は創業者田中久重が世の中を豊かにしたいと言う思いで1875年創業致しました。そして現在は『人と地球の明日のため』に言うグローバル・スローガンを掲げ、環境経営を進めております。

社会インフラから半導体まで手掛ける複合電機メーカーとして、地球と調和した人類の豊かな生活の実現を2050年のあるべき姿として『環境ビジョン2050』を掲げております。その実現に向けて、製品はもとよりのづくりそしてマネジメントにおいて第5次環境アクションプランとして具体的な目標を策定しております。又、気候変動問題の解決を最重要課題として捉えており、

この取り組みに対し今年度もCDLI、CDLIの両方に選ばれ、更に情報開示CDLIでは満点の評価を頂きました。CDPが開示すべき情報としている気候変動問題に関する戦略は、私共が掲げている事業戦略そのものだと思っております。

又、製造段階だけではなく、調達から使用そして廃棄に亘るスコップ3のGHG出力は、企業が気候変動問題に如何に取り組むべきかを示唆する大変重要なデータであるとも思っています。その分析からはライフサイクル全体のGHG排出量の中で、私共がお客様にお届けした製品の使用に伴うものが8割以上となっております。低炭素エネルギー技術と省エネルギー製品の提供が一番の気候変動対策である事が見て取れます。開発する全ての製品で、省エネルギーをはじめ、環境性能ナンバーワンを追究し、そして世の中に多数の製品を送り出して行きたいと考えています。

一方気候変動問題に抜本的に取り組みべく、エネルギー技術あるいは情報通信技術を融合したエネルギーの供給面から、オフィス、家庭そして交通システムを統合したスマートコミュニケーション事業を推進し、低炭素

社会の実現を目指しております。

勿論、ものづくりにおけるGHG排出量の削減についても、積極的に取り組んでおります。電力使用に伴う二酸化炭素だけでなく、絶縁用のSFCガスや半導体製造用のPFCについても回収装置や除外装置の設置を積極的に進めており、1990年比でGHG排出量の6割以上を削減しております。

高効率なものづくりを進める上で、グローバルナンバーワンの低環境負荷を追求して行きます。又、今後益々重要性をおびる気候変動に対する適用についても、現在積極的に取り組んでおります。例えば、異常気象によるゲリラ豪雨を的確に掴む気象レーダーや感染症等に対処するヘルスケア事業、あるいは気候変動の影響を受けにくい植物工場等、環境と事業のベクトルを同じくして貢献して行きたいと思っております。

気候変動問題は私共企業が取り組み、それを世の中に伝えていくCDPの様な活動に後押しして頂くことで必ず解決出来るものと確信しております。引き続き、気候変動を始めとする様々な環境問題に積極的に取り組んで参る所存です。